

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・外国人客の訪日が堅調である。また、LCCの新規就航などで国内客も伸びている。全体的に国内における景気回復の動きが客の地域間移動を底上げしており、当店においてもプラスとなっている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来年度の間合せ件数が例年よりも多い。また、客単価についても上がっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・積雪や冷え込みの影響により、1月中旬までは例年と同様に来街者が低調に推移していたが、下旬に入ってから買い回り品を中心に区域内の百貨店などで買物をする客が増えている。現金払戻しセールなどの販促イベントを月末に行った店舗があったことで来街者が増加しており、区域内を全般的に回遊する客が増えている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は雪が少なかったため、年始商戦は順調に推移した。ただ、日並びが悪かったのか、国内からの旅行者客が極端に少なかった。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・来客数はそれほど増えていないが、3～4年前と比べて、国内客による売上が確実に伸びている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数、購買客数が前年を下回る傾向は続いているが、売上は前年を上回っている。客単価が上昇しており、どうせ買うなら良い商材をとという傾向に回帰してきている。
		百貨店（営業販促担当）	単価の動き	・来客数は前年をやや下回っているが、客単価が上昇している。高額商材など、ボリュームゾーンよりも上のランクの価格帯の商材が好調に推移している。衣料品もコートなどのアウターが好調に推移している。また、セール時期に入ってから、客が気に入った定価品を選ぶなど、買物がセール品に偏っていない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・1月は高額商材がよく売れた。来客数も微増ではあるが、伸びてきている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数を前年比でみると、3か月前と比べて回復傾向にある。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・土日の来客数が増えてきており、それに伴い受注量も増加している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年、北海道では1～3月にかけて春先需要の盛り上がる時期となる。今年も1月の販売量が上向くなど、需要の高まる兆しがみられたことから、景気はやや良くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・高額な新型車両が導入されたなか、買い方提案などを行った結果、見込みを上回る販売量となった。市場にはこのような高額商材を求めるユーザーがまだ埋もれており、アプローチの仕方によってはもっと販売量を増やすことができる可能性がある。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・車検台数が前年比110%と増えている。また、ドライブレコーダーはメーカー欠品が続いており、納期待ちが続いているものの、引き続き需要が高く、前年比200%と伸びている。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・外国人観光客の増加に伴い、当店の来客数、客単価共に前年を上回った。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣アジアを中心に観光目的の外国人客が堅調に推移している。国・地域別にみると、韓国、中国、台湾の順に客が多い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・冬季ということもあり、日中の稼働が堅調である。また、夜間についても、休日前、平日を問わず利用者が堅調に推移している。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社への流出は相変わらず多いが、他社からの流入が過去最高を記録した。自社サービスに対する客の理解が得られつつあることを実感している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・初売りは前年並みであったが、初売り以降は悪天候の影響で売上が減少し、結果的に月全体の売上も前年を下回った。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、これまでと同じように、景気が良くなるわけでもなく、悪くなるわけでもなく、淡々として日々の生活を過ごしている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上はやや増えたものの、燃料や原材料の価格が上昇している。	

一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・客単価については月による変動がそれほど大きくないため、販売量の増減が直接売上に影響してきている。このところ販売量は横ばいで推移しており、景気は変わらない。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・年が明けてから、来客数、買上客数が前年を上回って推移していたが、前年は1月末から2月初旬にかけて春節に合わせて来道していた中華圏の外国人観光客が多数いたため、その反動で月末になってからは、来客数も買上客数もマイナスに転じており、前半で稼いだ貯金がなくなってきた。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数の動向が変わらない。
スーパー（店長）	お客様の様子	・初売りの来客数こそ伸びたものの、節約志向は依然として変わらない。野菜の価格高騰の影響もあり、客の財布のひもが固くなっており、買物の仕方がよりシビアになってきている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きは下げ止まっているものの、引き続き前年を下回って推移している。年始や節分などの催事商材が好調で客単価も上昇しているが、日用品の売上が低調である。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年は降雪量が少なく、除雪業者の仕事量もそれほど多くなかったが、今年は降雪量が多く、それに伴い除雪業者の仕事量も増えている。このため、前年と比べると、景気は上向きとなっている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・直近3か月間の来客数にほとんど変化がなく、増加する気配がない。ただ、客単価は上昇しており、客の購買動向はそれほど悪くない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・初売りは例年以上の動きだったが、中旬以降は来客数が頭打ちとなった。月全体では前年並みの結果となる見通しである。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・初売りから1月半ばまでは、来客数も売上も前年以上の数字で推移していたが、後半になり、客足が落ち込んだ。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が断続的に上昇しているが、現在のところ影響は余りみられない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・例年になく寒さと大雪が続いていることで、客足が鈍い。サラリーマンが中心のランチも7～8割の入込にとどまっている。一方、外国人客は堅調であり、ディナー客のほとんどを外国人で占める日もみられた。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行販売額が前年と余り変わらない。来客数や販売額も景気が良いと感じるほどではない。
タクシー運転手	来客数の動き	・前月までと同様に1月もタクシー1台当たりの売上が前年を4%ほど上回った。ただし、乗務員不足で稼働率が悪いことから、会社の収入は前年を4%ほど下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・例年、冬場は観光客が激減することになるため、全体的に動きが鈍くなる。特に今年は雪の日が例年よりも多いため、地元客の動きが悪く、全体的に流れが悪くなっている。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・1月29日時点の利用乗降客数は前年比103.5%となっている。ここ3か月、前年比がほぼ100%前後で推移しており、変化がみられないことから、景気は変わらない。
美容室（経営者）	お客様の様子	・灯油、ガソリン、野菜などの価格高騰といった不安材料があるにもかかわらず、来客数、売上に大きな変動はみられず、安定した状況で推移している。
美容室（経営者）	販売量の動き	・1月の売上が前年とほとんど変わらない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・ほぼ例年並みの売上で推移しているため、景気は変わらない。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年よりも天候が悪く、フェリーの欠航回数が増加している。

	住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・分譲マンションのモデルルームへの新規来客数がやや増加している。また、再訪客数も前月と比べて増えている。しかしながら、例年、1～3月の来客数は総じて多いため、景気の方向性が良いのか悪いのか、今一つ判然としない。	
	百貨店(担当者)	販売量の動き	・例年にはみられないほどの悪天候の影響で来客数が落ち込んでいる。今年は特に大雪や暴風の日が多いため、客の来店意欲も落ち込んでいる。	
	百貨店(役員)	お客様の様子	・来客数及び買上客数の減少が目立つ。	
	スーパー(役員)	来客数の動き	・例年と比べて今冬の累積降雪量が極端に多いわけではないが、暴風雪の影響で来客数が減少しており、12月以降、週末や月の最終週に客が集中する傾向が続いている。客単価が前年比で2%、買上率が前年比で1.7%上昇するなど、商材の動きは悪くはないが、来客数減少の影響が大きく、1月の景気はやや悪い。	
	スーパー(役員)	単価の動き	・野菜の異常な高値が続いているため、ほかの商材にお金が回らず、全体の売上が落ちている。	
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数はそれなりにあるが、買上客数は大きく減っている。	
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・現状、新型車が発売される予定もないため、景気はやや悪い。	
	その他専門店 [医薬品](経営者)	来客数の動き	・高齢化した顧客の多い当店にとって、下旬からの全国的な悪天候の影響が大きかった。1月に入ってから比較的良好的な天候が続いていただけに、反動も大きかった。また、外出を控えるように呼びかける報道もマイナスであった。	
	高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・1月中旬までは暖かい日が続いていたこともあり、客入りが良かったが、月後半に寒気が強まってから、客足が半減した。特に25日の給料日の大雪はランチに打撃となった。また、全国的に暖かい日が続いていたことで、価格高騰が続く野菜の価格が落ち着くのではないかと期待していただけにショックも大きかった。	
	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・景気回復が進まないなか、野菜の価格高騰の影響で、客が消費を抑える傾向がみられる。客の先行き不安も依然として強い。	
	観光型ホテル(役員)	単価の動き	・宿泊単価の伸びが止まり、施設内の物販単価が低下傾向に転じるなど、宿泊客の節約志向が高まっている。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・例年1月は流氷が接岸するまでの間、観光需要が低下する時期となる。名古屋便の期間運休もあり、景気が上向き要素は余り見当たらない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関連でのオーダーは横ばいで推移しているものの、外国人観光客を含めた観光客からのオーダーが減少している。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・客からのサービスの要求水準が以前よりも高くなってきている。	
	通信会社(社員)	来客数の動き	・天候の影響もあり、来客数が減少傾向で推移している。	
	パチンコ店(役員)	単価の動き	・燃料の価格高騰に加えて、雪害による野菜の価格高騰もあり、景気はやや悪くなっている。	
	住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・前年の秋以降、アパートの着工数が減少傾向にある。そのため、建材などの売上も減少している。	
	x	タクシー運転手	販売量の動き	・前々年の台風被害から1年以上が経過したが、売上回復の兆しが見当たらない。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-	-	
	建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・景気はやや良くなっている。ただ、資材価格や労務単価の高騰によるマイナス面もみられるようになってきている。ある新築工事では、設計確定後の見積りが3か月前の基本設計段階と比べて2割以上も価格が上昇したことから、着工を2年程度遅らせることとなった。	
	金融業(従業員)	取引先の様子	・個人消費は底堅く推移しており、外国人観光客による消費も引き続き堅調に推移している。民間設備投資も都市再開発事業やホテルを中心とした建設投資が全体を押し上げている。道内景気は緩やかな回復が続いており、3か月前に比べてやや良くなっている。	
	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・市場の稼働日数が少なかったこともあり、主力商材の販売量が2～3か月前の平均と比べて20%減少しているが、当初の予測数値よりは伸びていることから、景気はやや良くなっている。	

	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピックの効果か、請負物件の需要が増えつつある。しかしながら、全体的には足踏み状態が続いている。
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注工事は大きな遅れがなく進捗しており、見込みどおりの完成工事高が確保できている状況に変化はみられない。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前々年の不作の影響で今シーズンの農産物はほとんど在庫のない状況でスタートしたため、農作物が豊作であったにもかかわらずなかなか倉庫保管につながらない。
	司法書士	取引先の様子	・冬という季節的な要因もあり、不動産取引、建物の建築が低調に推移している。
	司法書士	取引先の様子	・1月の不動産取引は、前年の受注増の反動で減少傾向にあるなど、景気回復にとってマイナスとなっているが、当地の観光客が増加していることで、極端な景気の悪化はみられない。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先の慎重な姿勢は変わらないものの、業績は少しずつ上向いている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前々年の台風災害からの復旧需要が落ち着いてきているが、都市部での民間建設の案件が相応に出てきている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前々年の台風災害からの復旧工事が堅調に推移しており、1月の受注量は前年比120%となった。
	出版・印刷・同関連産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・首都圏市場の需要はあるが、道内市場の需要が徐々に落ち込んでいる。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年、冬場の輸送量が落ち込む傾向にあるが、特に今年は国内間輸送が見込みよりも少ない。スポット需要の引き合いも余りみられない。
	x 食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が減っており、生産調整を行っている。
雇用 関連 (北海道)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人が増加傾向にある。営業系の求人が増えているほか、社内SEや社内Web担当者の求人が寄せられており、企業が販売、営業の強化を図っていることがうかがえる。一方、企業の採用スタンスはスキル重視であり、人材不足で困っているものの、採用に当たって妥協することはない。企業が求めるスキルと求職者のスキルがミスマッチとなっており、求職者側のスキルアップが求められている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新車の売行きが好調であり、それに伴って中古車市場の消費の動きも活発になってきている。また、年末から年明けにかけて、小売業の売上が好調に推移している。これらのことから当地の雇用環境はやや良くなっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新卒採用はどの企業もほぼ一段落しているが、物流関係、住宅産業では今も求人が絶えておらず、中途採用に対するニーズも高い。企業の採用担当者からは、仕事は大量にあるのに人手不足で対応できないという話をよく聞いており、景気が良くなっていることの表れとみている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求職者数の動き	・企業の求人意欲はあるものの、求職者の動きが鈍い。
	求人情報誌制作会社（編集者）	採用者数の動き	・年明けの求人は様子見からスタートした感がある。募集しても採用が決まらないため、企業の経費が圧迫されており、現状の人材で賄うか、業務を縮小するかを判断する企業も出てきている。一方、福祉介護については人手不足の影響で求人数が増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が6年2か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が11か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.12倍と7年10か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、人手不足分野の建設、医療、福祉で増加しているほか、運輸業や宿泊業などの幅広い業種においても前年を上回っている。一方、求職者の減少などにより求人充足は進んでおらず、企業の手不足感が広がっている。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の有効求人倍率は1.14倍と引き続き高い水準で推移している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の動向をみると、当初の見込みよりも求人数が下回る動きが続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が減少傾向にある。とりわけ食料品製造業を中心に製造業の求人が減少している。
x	-	-	-